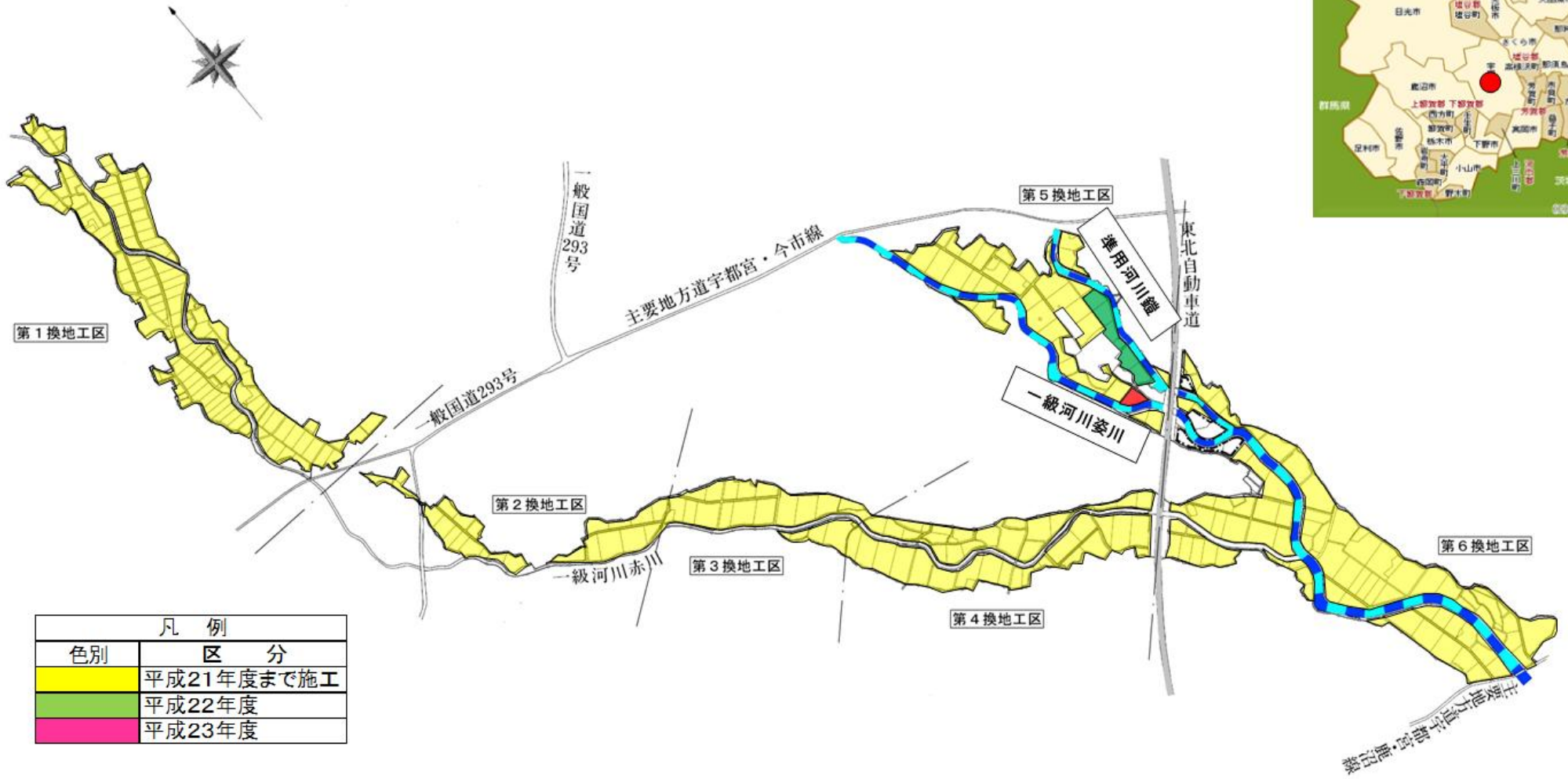


## 圃場整備事業の再評価概要書

圃場整備事業の再評価概要書			番号	201
上段( )は、前回再評価時			事業主体	栃木県
事業名	県営圃場整備事業		事業所管課	農政部 農地整備課
地区名	しろやま 城山		事業箇所名	うつのみやし ふくおかまち たのまち しもあらはりまち 宇都宮市福岡町、田野町、下荒針町、 こまにゆうまち 駒生町
事業区間			事業面積	143.7 ha
H8年度事業化			H9年度工事着手	
事業期間	(H8 ~ H20) H8 ~ H24	事業 進捗 状況	基準年次：【平成22年度末時点】	
全体事業費	(18.7億円) 19.4億円		進捗率	
事業概要			既投資事業費	19.2億円 99.0%
<p>本地区は宇都宮市の西部に位置し、一級河川姿川とこれに合流する一級河川赤川及び準用河川鎧川沿いの南北に開けた肥沃な水田地帯である。しかしながら、区画は小さく不整形であるとともに道路は狭小で屈曲しており、用排水路も土水路のため効率的な農業経営が図れない状況となっていた。</p> <p>このため、本事業により、農地の大区画化、汎用化を図り、大型機械の導入や農業生産性の向上及び事業を契機とした農地利用集積を促進する等、生産性の高い農業構造を確立する。</p>				
事業を巡る社会経済情勢等の変化				
<p>土地改良法の一部改正（平成13年6月29日施行）により、事業実施の原則として環境との調和への配慮が加えられ、これを契機に、地域住民においても環境への配慮に対する意識が高まり、一部平地林を生物の生息空間として、また、地域のランドマークとして保全を行った。</p>				
事業の投資効果				
1 費用対効果分析結果				
(1) 事業全体		B/C= 1.36	【総便益(B)】 31.2億円	【総費用(C)】 22.9億円
2 事業の整備効果等				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手(9名)への農地利用集積面積が15.9haから70.7ha(シェア49%)に増加しており、効率的な営農が可能となり、耕作放棄地発生の防止にも効果を発揮している。</li> <li>・暗渠排水等の実施により湿田の解消が図られ、転作作物として麦、大豆など多様な畑作物が作付けが可能となり、今後も作付面積の増大が期待されている。</li> </ul>				
事業の進捗状況等				
1 事業の進捗状況				
平成22年度までに142.8haが完了、平成23年度に整地工0.9ha、暗渠排水工1.3haを施行し工事完了となる。				
2 事業工期				
平成18年度再評価時においては、未同意者との調整により時間を要するため、平成20年度事業完了の予定であったが、未同意者との調整にさらに時間を要してしまったため、平成24年度まで工期が延長となった。				
3 今後の事業進捗の見込み				
平成23年度に工事完了、平成24年度に換地処分を実施し、事業完了の見込みである。				
コスト縮減等				
1 コスト縮減方策				
低位部の農地に公共残土を受け入れ、盛土費用を縮減している。(H22 V=2,000m <sup>3</sup> C=4,000千円)				
受益農家の意向				
整備後の農地では、営農条件が飛躍的に向上し事業効果が発現されており、また、農地集積も着実に増加していることから、地元土地改良区は早期の事業完了を望んでいる。				
関係機関の意向				
担い手への農地集積が増加し、野菜の産地化、ブランド化も進むなど、高生産性農業の確立を図る基盤整備の効果は着実に発現されており、宇都宮市では事業の早期完了を期待している。				
事業の対応方針(案)		現計画で事業を継続する。		

# 県営圃場整備事業 城山地区 計画概要図



凡 例	
色別	区 分
Yellow	平成21年度まで施工
Green	平成22年度
Pink	平成23年度

